

採血に伴う合併症について

慶應義塾大学病院 臨床検査科 外来採血室

採血室では静脈からの採血により検査に必要な血液を採取します。基本的に採血は安全な手技で、合併症を起こすことは極めて少なく軽症なものが多いとされています。

しかし、ごく稀に以下のような合併症の報告があることをご承知ください。

止血困難・内出血

採血後の不十分な止血操作が原因となることが多いです。採血部位を5分以上、揉まずに圧迫止血してください。

- *ご自身での止血操作が困難な方はお申し出ください。
- *血液をさらさらにするお薬を服用中の方は、血液が止まりにくいいため15分以上の圧迫止血をお願いします。

神経損傷

非常に稀ですが、
神経を損傷することがあります。
採血後も手指へ広がる
痛み・しびれなどが持続する症状がありましたら、お申し出ください。

- *採血は針を刺すため、痛みを伴います。



血管迷走神経反応

採血により一時的に血圧が低下するために、**めまい**、**気分不快感**、**意識消失**などをひきおこすことがあります。

採血に対し、緊張や不安が強いと起こりやすいとされています。

- *採血中に気分が悪くなられた場合は、すぐにお申し出ください。
- *ベッドでの採血を希望される方はお申し出ください。

アレルギー

採血時のアルコール消毒や止血のテープなどで**かゆみ**、**発疹**といったアレルギー症状がでることがあります。

- *アレルギーをお持ちの方はお申し出ください。
代替りのものをご用意いたします。

これらの合併症が起きた場合には

最善の処置を行います。

合併症についてわからないことがございましたら

担当医、または採血担当者にお尋ねください。



